



糸魚川赤煉瓦車庫 データ

いつ頃できたものなの？

大正元年（1912）
今から103年前です。この翌年、北陸本線が全線開通します。

どんな建物なの？

イギリス積み風の煉瓦造で、一部に石材が使われています。
小屋組は鉄骨トラス梁です。

広さは？

837㎡ありました。

同時期の建物に

どんなものがあるの？

- 東京駅：大正3年（1914）
- 横浜赤煉瓦倉庫
- 2号倉庫：明治44年（1911）
- 1号倉庫：大正2年（1913）
- 盛岡銀行：明治44年（1911）

☆現在の姿

今年開通した北陸新幹線のための新駅では、南口（アルプス口）のデザインを中心として赤煉瓦車庫の三連アーチを据えました。単に壁に貼り付けるのではなく実際にアーチの下を通り抜けて駅に入れば、大規模なNゲージやH0ゲージ、プラレールなどがフロア中で走り回ったり、待合室として退役したキハ52が設置されていたりする「ジオパル」があります。

全体を残すことはできなかったけれど、鉄道遺産として現役の鉄道駅の「顔」としてこれからも糸魚川のシンボルのひとつであり続けることになりました。

☆これも残したいな…

えちごトキめき鉄道に移管された市振駅構内には、古い赤煉瓦造りのランプ小屋があります。

この建物は長い間地域でもほとんど注目されていなかったのですが、2年後の地域の公民館の建て替え時に活用できないか、現在真剣に検討されています。公民館は駅に隣接、または駅そのものの建て替えとしてつくられる計画で、その際観光案内所的な機能を持たせたらどうか？といったプランがあるようです。



市内には他にも奴奈川神社、旧北陸線のトンネル、橋脚、橋立金山精錬所跡などにも煉瓦があります。そういったものの見学、記録、紹介などにも、関わっていきたいと考えています。



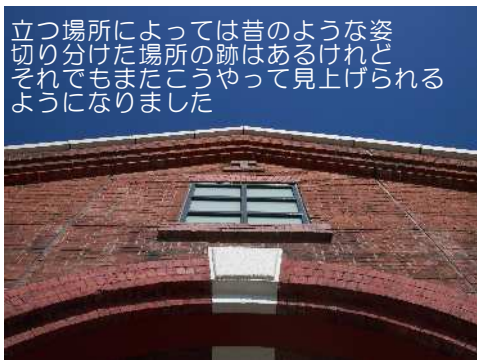
裏側はこんな構造にちゃんとくぐれます



ジオパル内の大規模なNゲージコースは糸魚川と新幹線とつながる首都圏の両方を模したものです。自分のNゲージを走らすこともできます



街なかレトロギャラリーで販売されたシリアル番号入り煉瓦。建設に使われなかった煉瓦は大切にしてくれるひとに



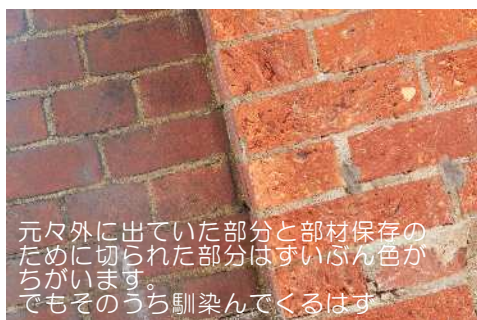
立つ場所によっては昔のような姿切り分けた場所の跡はあるけれどそれでもまたこうやって見上げられるようになりました



イベントの日にはキハ52はレールの上を出てきます



キハ52がある待合室の中に、赤レンガ車庫の窓周りが使われています。そしてデジタルサイネージ画面では懐かしいレンガ車庫の姿も



元々外に出ていた部分と部材保存のために切られた部分はすいぶん色がちがいます。でもそのうち馴染んでくるはず



キハ52の前には線路が敷かれイベントでは引き出されます。車庫に入っているときも見える車両



駅近くの小学校横のS1広場もレンガが組み込まれたデザインに